

校種：高等学校
教科：数学



単元名「三角比」など
学校設定科目(3年)



現在の授業スタイル（例）

- 授業開き、評価のつけ方等の説明
- **一斉授業**（グループやペア学習）
- 授業者間で、取り扱う内容を確認
- テスト範囲をそろえる
- **中間、期末考査実施**
- 成績をつける



「個別最適な学び」
「協同的な学び」
授業デザイン

2クラス 3展開や
3クラス 4展開等
を活用する！

1クラス1展開の場合
時間割編成の際に別の
クラスと同じ校時に設
定してもらおう。

授業デザイン(選択制)

授業クラス

(1クラス)



自由進度学習クラス

(2～3クラス)

基本問題を中心にペア学習やグループ学習を行い生徒間での質疑応答の時間を多くとる。

ICT教材も活用する。
※すべての範囲は行わない。数学が苦手な生徒を中心とした授業を行う(観点別評価C→B)

教科書や模試、大学受験レベル過去問など、各自のレベルの応じた内容の問題に取り組む。

生徒間での質疑応答を中心に行う。

ICT教材も活用する。



選択制→主体性

※どの集団においても

必ず学力の差は出る

(262の法則)

→個別最適な学びへ

単元テストの実施

定期考査は行わず単元テストを2回実施する。但し、2回目の単元テストは、生徒の希望制（主体性）とする。2回目の単元テストを希望しない生徒は、次時の予習を行う。



単元テストについて

1回目 → No勉強

2回目に1回目の問題を見て勉強するのでは？

対応策 → 2回目の点数は上限65点(or70点)等、
を設ける。



留意事項

- ①本單元における評価のつけ方や単元テスト実施までのスケジュールを生徒と確認する。
- ②単元テスト範囲のプリントを事前に配布する（身につけさせたい資質能力の提示）。宿題は出さない。勉強法を提示する。
- ③Classiやスタディサプリなど学習アプリの活用を推進する（個別最適な学び）。
- ④単元テストの2回実施は生徒の主体性を育てる観点及び自学自習へのつなぎの面から導入する。

※「手をかける」指導から「待つ」指導へ

参考文献



学校の「当たり前」をやめた。

工藤勇一（2018 時事通信）

※数学ⅠⅡⅢおよびABCの授業においても実践可能である。

